資料２－１

市内小中学校における生成ＡＩの使用状況について（R9.8 市内 14 校調査）

〔犬山市で環境を整備しているＡＩ〕

□　教職員　Microsoft copilot（校務系）・Google Gemini（学習系）

□　児童生徒　Google Gemini（学習系）※小学校は４年生から使用

〔全体の傾向〕

児童生徒の学習支援・発表物の作成、教職員の授業準備、校務の文書作成・翻訳・文字起こしなど、業務の効率化に幅広く利用されている。特別支援や外国語等の領域で、個別最適化での利用もある。

１　児童生徒の学習における活用シーン（児童生徒が使用）

- 調べ学習の補助（基本的な情報整理、やさしい説明の生成、追加情報の提示)。
- 発表資料・スライド・ポスターの作成支援（要約・構成提案、発表原稿の作成)。
- 英語学習支援（英文作成・添削・文法チェック)。
- 創作・表現支援（図工や美術のテーマ・色使いの提案、イラストを含めた作品案出し)。
- 問題・クイズ・学習ゲームの作成（練習問題、復習用クイズ）
- 個別支援・補助学習（分かりやすい説明の段階化、反復練習の提供を受ける）
- 対象学年：小学校・中学校ともに利用が見られる。特に小学校高学年・中学生で調べ学習や言語活動支援での利用が多い。小学校低学年での図工等でも活用例もある。

２　教職員の学習（授業準備等）における活用シーン

- 課題プリント、小テスト、チャレンジ問題の作成補助。
- 単元計画、指導案、発問案の作成・言語化（学習指導要領・評価規準に合わせた到達目標の生成)。
- 指導案検討のための授業展開や導入案の相談。
- 図や教材の編集、学習で使用するイラストの作成（教科書＋αの図示、掲示物作成)。
- 生徒の答案傾向の把握、テスト原案のチェック。
- 特別支援での利用（個別教材の作成、支援活動のアイデア出しなどで活用されている。）
- 教科横断的な利用：国語・社会・理科・英語・道徳・家庭・音楽・技術など、ほぼ全ての教科で利用例が報告されている。

３　教職員の校務 DX（業務改善等）における活用シーン

- 各種案内文、学年通信、保護者向け文書等の素案作成・校正・表現の変更等。
- 既存文書の要約、改訂案の作成、マニュアル更新における補助。
- 多言語翻訳（保護者向け案内の文書等)。
- 音声の文字起こし、会議内容の要約、アンケート集約や分析の補助。
- Excel における数式・マクロ作成の支援。
- 学校行事や研修資料のプレゼンテーション資料作成、各種情報の一覧化。
- 校内掲示物や学年や学級で使用する資料、学級通信のデザインやイラストの作成。

4　調査から読み取れる気づきや留意点等

- 利用の幅は広いが学校間でまだまだ差がある（利用頻度・高度さに差)。
- 小学校高学年、中学生での学習活用、教職員の業務軽減での活用が特に顕著。
- 特別な支援や個別の対応に適合する利用が進んでいる。
- 著作権、学習規律に関する運用ルールの整備が今後もさらに必要とされている。

5　これまでの使用状況からみる課題

- 市が環境を整備している Microsoft copilot、Google Gemini 以外の生成 AI の使用
- 校内、教員間での利用格差
- 教員側のスキルアップや運用ルールの確立
- 生成 AI の使用を許可する学年について（小学校４年生からは妥当か）
- 生成 AI を活用した事例の市内での共有